

# 時事新報

第二千八百四十六號  
明治三十三年十一月廿二日 土曜日  
舊曆庚寅十月廿一日（丁未）  
出版時間 午前六時二十分  
午後二時二十分  
午後四時二十分  
午後六時二十分  
午後八時二十分  
午後十時二十分  
（西曆一千八百九十年）

### 開院式を祝する大附録

本月末には天皇陛下帝國議會に親臨して開院式を行はせ給ふ時事新報は此盛典を祝する爲め帝國議會貴衆兩院の内部を精密なる石版畫に寫し開院式の當日之を附録として配布し且つ臨時紙數を増刷す

### 時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價  
運送料廣告料ハ左ノ如シ  
一 枚二錢 ○ 一月前金五十錢 ○ 三月前金一圓五十錢 ○ 六月前金三圓  
○ 時事新報社ニ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ  
○ 一月十五錢 ○ 三月四十錢 ○ 半年六十錢 ○ 一年九十錢  
時事新報廣告料前金

一行	五活字廿四行	一日限	六日以上	七以上				
一行	二	付	十二	十一	十	十	十	十

### 學生の注意

學者に近視眼多ク舟子に遠視眼多ク甲は常に書見の爲めに近視眼を勞ふ乙は海上の遠望に遠視眼を使用するが爲めに各一方に偏したるものあり使用の繁なる部分に屈強眼となり其間ある部分に微視眼となり有形の生理上に於てのみ然るに無形の心理に在ても亦斯の如し彼の精神を萬世の長久に馳せて世の典範を講究し考慮を宇宙の廣大に運らして事物の真理を推察する哲學者の能力は其高きと山嶽の如く其廣きと大海の如し實に驚嘆の外なしと雖も唯當世の實務目下の利害に至るは拙劣を極め三歳童子も尙且爲すを及ぶるの奇愚を演じて世間の笑ふ所とあるは古今東西其例少なからず遂に世人をして愚人を呼んで哲學者と云ふに至らしめたりフレデリック大王は文學を重んじ學者を貴ぶんと甚だ厚く佛人ヴォルテール等の如き之を師友として尊敬せしにも拘らず王は常に謙に侍臣に語りて朕此社稷を亡さんと欲せば須らく哲學者を拜して相國に任すべし邦城の各都忽ち敵國の有に歸せんとの一言は以て王の聰明を驚かすと共に哲學者の愚を表するに足る可し之に反して實務家は當世の事情に達し現在の利害に明にして感懐應變の才智に富むと雖も大局の趨勢に暗く其言行もすれば道運の外に逸して往々讀者の嘲を招くのみならず自ら其人をして誤りて天下後世に遺すもの甚だ多し其するに學者は原因より結果に向て推察し實務家は結果を以て原因を推察するの慣性を馴致し一は永遠の結果に向て精神の全力を注集して目下近視の利害を忘れ

は眼前の現相に眩惑せられて遠察の明を失ふたるものなり人心の能力に限りある一方に發達を遂ふすれば他の一方に減退せざるを得ず即ち人生の約束なれば如何にもすべからず惟此約束の範圍内に在て務めて能力發達の宜しきを得せしむるの工夫ある可きのみ今學生と稱し天下の各所に散在して理を講し書を讀むの人数に多くして其目的一ならずと雖も之を要するに人生有益の知識を得て之を實地に應用し以て居家處世の目的を達せんとするものとすれば高尚なる道理を講ずるの外に社會百般の實事に通せざるべからずと雖も既に學理學說とありて書籍の面に顯れ教師の口頭より述出するものは古今に通じ各處に用ふべき單純の真理より演繹し來れるものなれば俗世界の紛擾雜駁なる情態を併行して目下當局の利害を辨するに足らずニウツの運動の定期に動體は永動し靜體は永靜なりと云ふと雖も實際に於ては諸種の他の力に犯されて動體も能く靜止し靜體も能く動作する其現狀は真理の式言に相反して會て定期の其儘に行はるを見ず又海面の波動は海水の平準を得んとするの作用に起り物價の昂低は價の標準點に復せんとするの結果なれども現場に顯はるる所は全く之に異なるが如し左れば學問の高尚優美なるは俗事の卑賤粗雑なるに勝れるが如く亦れども又一方より見れば學理學論の運轉緩慢なるは活世界の活潑機敏に及ばざるものと遠しと云はざるを得ず故に學生たる者は常に此邊に注意して紙上の空論に溺るゝもどなく更に進んで活世界の活學を勉む可き筈なれども如何せん其日々に交る所の人は當務の實地家にあらず又市井の俗人にあらずして幽窓の下に學友と學理を談論するにあらざれば教壇の教師に見えて學說を聽聞するのみ學問的の教養を精神に與ふるの點に於ては遺憾なきも世間普通の俗智世才を養育するの實に至ては決して缺ありと云ふ可らず精神の發達に偏重偏輕の憂なからしめんとするも得べからざるなり是に於てか學成り世に出でし事をなさんとするに當り長く道學の仙境に養はれたる眼を以て俗界の事相を觀察するときは其不條理不規則なるに一驚を喫する其有様は仙骨種々たる山人が茶を喫し棋を圍んで談笑靜に相樂むの境遇より遙かに俗酒高會放吟亂舞の熱席に倍したるが如く世人皆醉ひ我獨り醒む誰と和し誰と離れんか其爲す所を知らずして左顧右視する其間に醉氣紛々たる無學無識の俗輩が富を致し家を興し不義の浮雲に乘じて揚々得々却て成學の君子を睥睨せんとする者甚だ少なからず誠堪へ難き次第なれば今日の要は兎も角もして學問と實務との間に横ばる一大溝壑を埋めて兩者相互に來往するの道を開き學生を彼岸に渡すの方便を講ずるものと專一なる可し

其方法他なし唯讀書の學問の勢力を減殺して實務觀察の風を養成するに在るのみ我輩固より讀書を無益なりと云ふに非ず古人の說を聞き古代の事を知り異域の情に通ずる等の道は讀書より便利なるはなし兼に西洋の文明を輸入するに忙はしき近年の日本に在て洋書を講ずるが如きは最も大切なる事なれども其書を貴重するの餘り遂に之を迷信崇拜し獨立の觀察に由て得べき知見をも故さらに書籍に依頼して之を求めんとし却て他人の精粕を嘗めて自から悟らず居然學者を以て得々たる者なきに非ず彼の支那人が文を貴ぶの餘りに文字を祭り結繩の蠻民が書契の術を見て驚くこと云へば文明の士人は之を聞て常に嘲笑しながら士人も亦已を空ふして墨紋の紙片を崇拜するも鬼神之如しと云ふ夫子自から各に倣ふ者に非ずや事態既に斯の如くれば今日の學生たる者は驟起して此迷信を破り所謂書籍中の書讀むを休めて書外の書を讀み文外の文を講ずるもど肝要なる可し其文書は必ずしも遠きに求るを要せず身の外の事物都て自然の文章ならざるはなし戸外の散步をの眼に映する所のものは皆讀む可きの文字なり山川田野讀む可し商店工場讀む可し道路橋樑欄干屋簷讀む可らざるはなし人に接すれば人を讀み馬に逢へば馬を讀む之を讀み之を講じて其義理を解明し其因果を推察するは即ち社會と名くる大學校に居り千差萬別の文章を讀むものにして純然たる活世界の活學問なり而して此學問の修業必ずしも難きに非ず唯唯神の神經を鋭敏にして觀察注意を怠らざるに在るのみ或は遂に其習慣を變ずるを難んずる者あらんか先づ第一若輩として新聞紙の讀方に注意するより始むべし凡そ今の學生に新聞紙を讀まざるものなかるべしと雖も其之を讀むの方向法に至ては則ち遺憾なき能はず何と云へば讀者は概ね其好む所を愛讀して他は之を乾燥無味の事とし願ひするもの多ければなり例へば法令商規相場附屬廣告等の如き或は一般の學生の爲めに大利害なき事項にても常に之に注目するときは直接に其知識を博するの外に間接に活物實事に對する感覺を訓練して他日身を立て世に處するに當り頗る調法ある調法を與ふべきものなれば些少の勞を厭ふて眼前の珠玉を拾はざるは沙汰の限と云ふ可し社會の事相、新聞紙の記事都て是れ不識手の藥にして其効能の如何は唯唯用法の大小精粗に在て存するのみなれば我輩は今の學生に向て其工夫あらんことを願ふ者なり

### 官報

○東京府告示第七十四號  
本月二十七日ヨリ總務部市部官署開  
明治三十三年十一月二十一日  
東京府知事 佐藤 實  
○東京府告示第七十五號  
東京府知事 佐藤 實  
明治三十三年十一月二十一日  
東京府知事 佐藤 實

### 佛露兩國の關係

佛露兩國が獨逸の三國同盟に反對して同盟を約するならんとは兼てより世間に傳はる噂あるが近頃暫らく露國に滯留せし佛國議員ゲルヴィンク氏に向て多數の露國人の語りたる所なりと云ふを聞くに我露國の政體は佛國の政體に比すれば木に根を異にすれども吾々は相互の内政に干渉するの意なきが故に雙方の政體に如何なる差違あるやを問はす兩國の關係として益々親密ならしむる可からず我國が既に此事情を示せしむと少からず例へば佛國が露都セントピートルスバグに駐在する佛國公使の邸に供せんが爲め一家屋を購ひし時露帝は其登記税を要求すべからずとの訓命を與へたり又近來露國にては陸軍の演習を行ふに當て外國士官を招待するものと

### 世界生絲の收

しも支那は一割  
界生絲產出額を  
名 一 年 年  
○又 去る十月  
九百萬二千基云  
十八年に於て千  
り千八百八十八  
著大なる増額を  
何れが價なるや

### 加納博士の演

芝の愛宕館に開  
に於て裁判所構  
の節再び同法に  
し前には裁判所  
○世界生絲の收  
しも支那は一割  
界生絲產出額を  
名 一 年 年  
○又 去る十月  
九百萬二千基云  
十八年に於て千  
り千八百八十八  
著大なる増額を  
何れが價なるや

止するの價あるはし近年の日本に在て洋書を講ずるが如きは最も大切なる事なれども其書を貴重するの餘り遂に之を迷信崇拜し獨立の觀察に由て得べき知見をも故さらに書籍に依頼して之を求めんとし却て他人の精粕を嘗めて自から悟らず居然學者を以て得々たる者なきに非ず彼の支那人が文を貴ぶの餘りに文字を祭り結繩の蠻民が書契の術を見て驚くこと云へば文明の士人は之を聞て常に嘲笑しながら士人も亦已を空ふして墨紋の紙片を崇拜するも鬼神之如しと云ふ夫子自から各に倣ふ者に非ずや事態既に斯の如くれば今日の學生たる者は驟起して此迷信を破り所謂書籍中の書讀むを休めて書外の書を讀み文外の文を講ずるもど肝要なる可し其文書は必ずしも遠きに求るを要せず身の外の事物都て自然の文章ならざるはなし戸外の散步をの眼に映する所のものは皆讀む可きの文字なり山川田野讀む可し商店工場讀む可し道路橋樑欄干屋簷讀む可らざるはなし人に接すれば人を讀み馬に逢へば馬を讀む之を讀み之を講じて其義理を解明し其因果を推察するは即ち社會と名くる大學校に居り千差萬別の文章を讀むものにして純然たる活世界の活學問なり而して此學問の修業必ずしも難きに非ず唯唯神の神經を鋭敏にして觀察注意を怠らざるに在るのみ或は遂に其習慣を變ずるを難んずる者あらんか先づ第一若輩として新聞紙の讀方に注意するより始むべし凡そ今の學生に新聞紙を讀まざるものなかるべしと雖も其之を讀むの方向法に至ては則ち遺憾なき能はず何と云へば讀者は概ね其好む所を愛讀して他は之を乾燥無味の事とし願ひするもの多ければなり例へば法令商規相場附屬廣告等の如き或は一般の學生の爲めに大利害なき事項にても常に之に注目するときは直接に其知識を博するの外に間接に活物實事に對する感覺を訓練して他日身を立て世に處するに當り頗る調法ある調法を與ふべきものなれば些少の勞を厭ふて眼前の珠玉を拾はざるは沙汰の限と云ふ可し社會の事相、新聞紙の記事都て是れ不識手の藥にして其効能の如何は唯唯用法の大小精粗に在て存するのみなれば我輩は今の學生に向て其工夫あらんことを願ふ者なり